

「山月記」群読コンテスト

『1』目標

群読によって「山月記」を表現しよう。群読は、シナリオを工夫することで、「山月記」をどう受け取ったか（どう読んだか）を表現することができる。人間の個性とは、どのように受け取り、どのよう表現するかで發揮される。オリジナリティのある群読シナリオを作り、「山月記」の世界を群読で演じよう。

このコンテストでは、聞いた人が「すばらしい」と思ってくれる群読を演じることを目標とする。

『2』フォーマット（形式）

①群読の技法を2つ以上使用し、シナリオを作ること。

②群読のシナリオは次の流れで作成すること。a・d・gに関しては、それぞれのことが最もよく現れている（と考えられる）連続した箇所を抜き出してシナリオに組み込むこと。

a 【虎になる以前の李徵の性格について、表現されている箇所】
b 「残月の光をたよりに林中の草地を通って行つたとき、果たして一匹の猛虎が叢の中から躍り出た。虎は、あわや袁慘に躍りかかると見えたが、たちまち身を翻して、もとの叢に隠れた。」（P26 L2）

c 「いかにも自分は隴西の李徵である。」（P26 L11）

d 【自分がどうして虎になってしまったのか、その理由を述べている箇所】
e 【作品中の漢詩全文（P31）】

f 「我が臆病な自尊心と、尊大な羞恥心とのせいである。己の珠にあらざることを惧れるがゆえに、あえて刻苦して磨こうともせず、また、己の珠なるべきを半ば信ずるが故に碌々として瓦に伍することもできなかつた。」（P32 L5）
g 【結びの表現（群読の結びとして最適な表現）】

③抜き出した部分の省略・改編（言葉を変えること）返しや語順の変化などはOK）をしてはならない。（群読の技法による繰り返しや語順の変化などはOK）

『3』評価

- ①『2』②の箇所を探す。
- ②シナリオを作る。
- ③清書用紙を提出（締め切り）
- ④群読発表＆相互評価（隨時）

『4』授業の流れ

- ①正確に読んでいるか。
- ②『2』の②が適切に抜き出されているか。
- ③「山月記」の世界が表現され、それが聞き手に伝わっているか。